

LAMP2019-The 8th International Congress on Laser Advanced Materials Processing

第8回レーザ先端材料加工国際会議

理化学研究所 光量子工学研究センター 先端レーザ加工研究チーム
チームリーダー 杉岡 幸次
(平成30年度 国際会議等準備及び開催助成 AF-2018242-V1)

キーワード：レーザ，マイクロ加工，マクロ加工

1. 開催日時

2019年5月21日(火)～2019年5月24日(金)

2. 開催場所

広島国際会議場
〒730-0811 広島市中区中島町1番5号
(平和記念公園内)

3. 国際会議報告¹⁾

レーザ先端材料加工国際会議(LAMP)は一般社団法人レーザ加工学会(JLPS)主催の会議であり、過去に大阪、京都、神戸、新潟、小倉にて開催された。今回は第8回目として2019年5月21日から5月24日にかけて広島国際会議場にて開催した。会議は、マイクロ加工を中心としたLPM(The 20th International Symposium on Laser Precision Microfabrication)およびマクロ加工を中心としたHPL(The 8th International Symposium on High Power Laser Processing)の2部門から構成されている。

投稿件数は、プレナリー4件、LPM20周年記念特別講演3件、招待講演36件、口頭発表153件、ポスター発表66件の262件であった。そのうち実際の発表件数は253件となった。プログラムは、4パラレルセッションで開催されるとともに、会期2日目の昼食前にはポスターセッションのショートプレゼンテーションを行い、中2日間の昼食時には、ポスターセッションを行い、多角的なプログラムを構成することができた。参加者数については、参加国数24カ国361名(前回比+20名)であった。そのうち186名が国内からの参加、残りの175名が海外23カ国からの参加者であった。参加者数の国別内訳を表1に示す。海外参加者ではドイツが48名と最も多く、中国22名、韓国18名、アメリカ14名、台湾・フランスがともに10名、イギリス9名、リトアニア8名、ロシア・カナダ・インドが各5名、オーストリア・ポーランド・スペイン・スイスから各3名、オランダ2名、オーストラリア・ブラジル・ギリシャ・ルーマニア・サウジアラビア・シンガポール・スウェーデンが各1名と続く。アジア諸国からの講演・参加者も多く、レーザ加工技術が確実に我が国の近隣にも普及していることがわかった。

表1 国別参加人数

国名	人数	国名	人数
日本	186	ポーランド	3
ドイツ	48	スペイン	3
中国	22	スイス	3
韓国	18	オランダ	2
アメリカ	14	オーストラリア	1
フランス	10	ブラジル	1
台湾	10	ギリシア	1
イギリス	9	ルーマニア	1
リトアニア	8	サウジアラビア	1
カナダ	5	シンガポール	1
インド	5	スウェーデン	1
ロシア	5		
オーストリア	3	合計	361

会議参加者361名のうち、海外からの参加者は約半数であり、日本におけるレーザ加工の国際会議としては最大級のものであると評価される。

本会議は、レーザ加工分野において基礎研究者、エンドユーザー、レーザマニュファクチャラーが一堂に会し、レーザ材料相互作用の基礎科学からレーザ加工技術の現状、次世代のレーザ加工のトピックスまで幅広く議論できる数少ない国際会議であり、非常に有意義なものであった。今回の会議を通して、レーザ加工を支える科学基盤を確立することはもとより、レーザ加工技術の実用化を制限する要因、それを克服するために必要な将来技術、将来市場の予測などが明確になり、社会的にも有益な成果を挙げることができたものと確信している。

謝辞

本会議を開催するにあたって、公益財団法人天田財団より国際会議等準備及び開催助成を賜りました。ここに篤く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) Congress Program and Technical Digest of LAMP2019, (2019) in Hiroshima, Japan